ＩＰＭ実践指標モデル（ぶどう）

分類		管理項目		管理ポイント	点数	チェック欄		
						昨年度の実施状況	今年度の実施目標	今年度の実施状況
予防	病害虫・雑草の発生しにくい環境の整備	防風ネット等の整備		ほ場周囲には、防風ネット等を設置し、強風による病害の蔓延を防止する。	1			
		せん定（必）		せん定時に巻きひげや枯れ枝などを除去し、せん定くずや落葉はすみやかにほ場外に持ち出して病害の伝染源を減少させる。	1			
		施設栽培または被覆栽培（必）		施設栽培または被覆栽培の導入により病害の発生を抑制する。	1			
		新梢管理（必）		新梢の整理や誘引を適切に行うことで通風や採光を良好にするとともに、農薬散布の死角をなくす。	1			
		堆肥		完熟堆肥を施用する。粗大有機物の施用は白紋羽病の発生を助長するので行なわない。	1			
		害虫の発生源となる植物の除去（必）		害虫の増殖・発生源となる植物がほ場内および周辺にあるときは、可能な限り除去する。	1			
判断	防除要否、タイミングの判断	病害虫発生予察情報等の確認（必）		病害虫防除所が発表するチャノキイロアザミウマの発生予察情報および防除適期情報を確認する。	1			
		生育状況の把握		予防的に灰色かび病の防除を行うため、開花状況を把握する。	1			
		病害虫・雑草の観察		ほ場には必ずルーペを持って入り、病害虫と天敵の発生や生態を観察する。	1			
		トラップの設置		黄色粘着トラップ等をほ場内と周辺に設置し、害虫の発生動態を知る。	1			
防除	耕種的防除	灰色かび病	花かすの除去	結実確認後に花冠等の花かすを払い落とす	1			
		晩腐病、灰色かび病、コスカシバ等	被害部の除去（必）	発病した枝葉や果房、樹幹害虫の被害部は除去し、ほ場外に持ち出して適切に処分する。	1			
	生物的防除	灰色かび病	生物農薬の使用	バチルス・ズブチリス製剤を使用する。	1			
		ハダニ類		カブリダニ製剤を使用する	1			
		カイガラムシ類、ハダニ類	土着天敵の活用	土着天敵に影響の少ない薬剤を選択する。	1			
	物理的防除	アザミウマ類、晩腐病等	袋かけ	適切な時期（満開後30～40日まで）に果実袋をかけ、袋の口はしっかり閉める。	1			
		チャノキイロアザミウマ	光反射シートマルチ	4月下旬からほ場（施設の場合は周囲に1.5m幅以上）に光反射シートを敷設する。注１	1			
		ハダニ類、カイガラムシ類等	バンド誘殺	秋季に幹に粗布を巻いて越冬卵を産む成虫を誘引し、冬季に処分する。	1			
			粗皮削り	晩秋に粗皮を削り、越冬場所を減らす。	1			
	化学的防除	農薬の使用全般（共通）（必）		十分な薬効が得られる範囲で、最小の使用量となる最適な散布方法を検討した上で、使用量・散布方法を決定する（薬剤散布後の残液が出ないように薬液を調整する）。	1			
		薬剤の選択		農薬を使用する場合には、特定の成分のみを繰り返し使用せず、農薬工業会が提供している作用機作による農薬の分類（IRAC、FRAC）を確認する。さらに、当該地域で薬剤抵抗性が確認されている農薬は使用しない。	1			
		散布方法		農薬散布を実施する場合には、適切な飛散防止措置を講じた上で使用する。	1			
		散布後の処理（必）		散布器具、タンク等の洗浄を十分に行い、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等に流入しないようにする。	1			
その他		作業日誌（必）		各農作業の実施日、病害虫・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等のＩＰＭに係る栽培管理状況を作業日誌として別途記録する。	1			
		研修会等への参加		県や農業協同組合が開催するＩＰＭ研修会や防除研修会等に参加する。また、研修会等の内容は、家族や作業者等へ周知し、情報共有する。	1			
					合計点数			
					評価結果			

＊　（必）と記述している管理項目については、必ず管理項目として設定しチェックする。
注１　光反射シート資材としては各種波長を90%以上反射する資材が適する。